

私のイメージするセルロイドをキーワードとするミュージアムネットワークの構想
セルロイドハウス横浜館 館長岩井 薫生 (いさお)

1870年前後に始まる**セルロイド産業**の勃興期には多くの先人の血と涙、汗の結晶と共に膨大なエネルギーと熱情がセルロイド新製品の開発や市場開拓につき込まれてきました。この先人のご努力を評価し、称えるためにも、いわばセルロイド全体に携わられた方々を擬人化の上、神格化することは当然のことと理解できると思います。

古く先史時代から先駆的なスローガンと急進的な行動で、人々の先頭に立ち突き進んだオーラを持つ人物を神として崇敬してきました。

わが国では歴史的に近い近現代に活躍した東郷元帥、乃木大将、幕末には吉田松陰、江戸時代には二宮 尊徳や中江 藤樹など偉大な先人がおられ、これらの方々にはいずれもそのお名前を持つ神社が誕生し、神格化された存在になっています。

この観点から考察すると**セルロイド産業**は誕生から成長、発展及び衰退に至るまでの150年の長きにわたり、幅広く社会、産業、経済分野さらには教育文化面に寄与してきました。その後この産業を母体として興隆した新興の**高分子プラスチック産業の先駆者**とも言えます。

産業の成熟期には多くの優れた経営者を輩出し、優秀な技術面でも優れた人材が生まれ、この方々のご努力の上にその後のプラスチック加工業の急速な成長と技術進歩が進展してきました。このことは衆目の納得するところでもあり、プラスチック史を専門とする方々のご意見と一致するところではあります。

セルロイド産業には長きにわたり、多くの方々が従事し、各分野で、懸命に働き、一隅の隅を照らす人として一生を**セルロイド**の発展に貢献してきました。

このことから見ても、セルロイド全体を歴史的な視点から見ても疑似的に神格化し、いわば宗教性を持つ象徴にまで高め、普遍性を持たせることについては大義名分が立つかと考えます。

私はセルロイド調査研究と収集活動全般にわたり**セルロイドハウス横浜館**を拠点として、セルロイド産業文化研究会の皆さん方の応援のもとにほぼ25年の活動を続けてまいりました。この経験を通じて、この産業に直接、間接従事されてきたを多くの方々の熱意やその思い、貢献されてきたことを広く世の中にご紹介し、知らしめる責任があると強く感じました。

将来を見据えて活動を広域化し、研究テーマの充実と連携研究調査を推進する目的で、**セルロイド連携ミュージアムネットワーク**の構想と実現化に意欲を燃やしています。

将来構想の一環として、**大阪セルロイド会館**がまさにベストな立ち位置にあると判断しました。

同館は歴史的な変遷を見ても極めて重要なコーナーストンで、今後**ミュージアム連携機能**を高め、質、量ともに充実化することは重要課題の一つで、この拠点の強化に**セルロイドハウス横浜館**が全面的に協力します。

私が館長として活動をしている**セルロイドハウス横浜館**は幸いにもほぼ25年にわたり、多くの方々のご協力により、セルロイドに関する製品や材料、図書文献、金型、治工具、加工機、その他、映像記録、写真等総計10万点を超える収蔵品を収蔵して参りました。

本年度後半から**大阪セルロイド会館**を中心として**セルロイドハウス横浜館**が保有する収蔵品の危険分散等も考慮して、セルロイド分散寄贈イニシアチブ活動を開始しています。現在対象とすご寄贈先は公共的ミュージアムの他、大学等教育機関、**セルロイド**を出発点とし、今日まで発展を続けている企業のミュージアムを候補先としています。

今後**セルロイドハウス横浜館**は協力者や支援者の方々と緊密な連携のもとに、大阪セルロイド会館と協力して、寄贈先の関係団体やミュージアムとのリンケージの結束点の役割を果たしたいと鋭意努力しています。

関係者のご協力で活動を続けてきた**セルロイド産業文化研究会**は2024年度から後継団体としての**セルロイドアカデミア研究機構**として、新拠点で学術研究の推進及び社会公益活動を中心として、連携ミュージアムと共に前進する計画です。

最後になりましたが、皆様方の温かい御支援とご協力のほどをお願い申し上げます。

以上

2022年9月30日